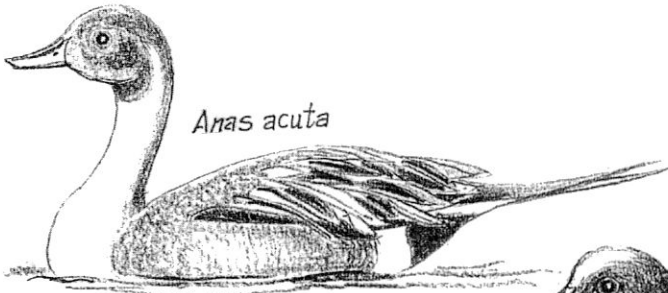


協議会ニュース

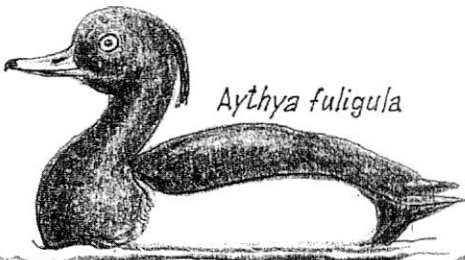
78号

愛知県自然観察指導員連絡協議会

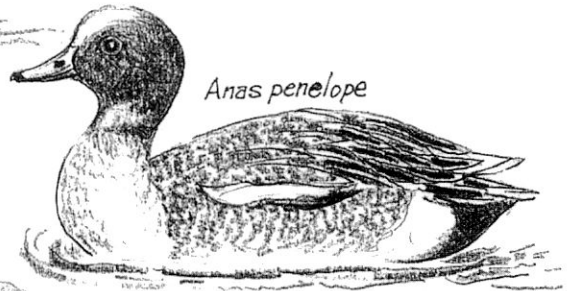
2001.4



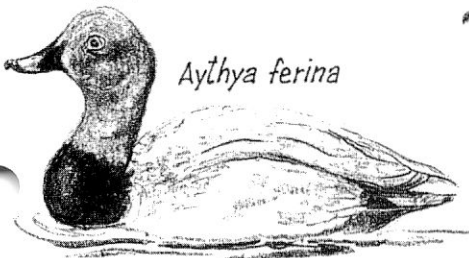
Anas acuta



Aythya fuligula



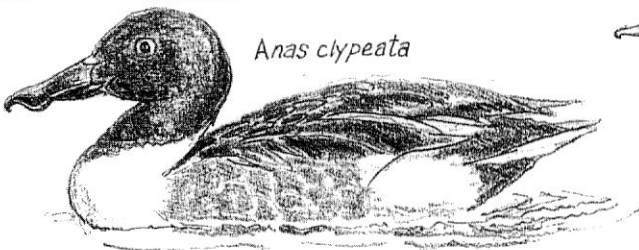
Anas penelope



Aythya ferina



Anas platyrhynchos

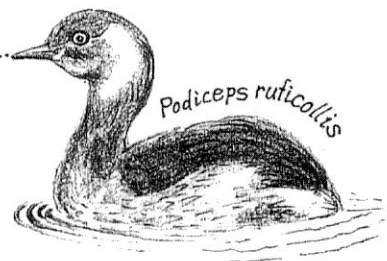


Anas clypeata



Anas crecca

オキヤクガンダヨ



Podiceps ruficollis

協議会 20 周年記念大会開催される

20 周年記念大会の状況

平成12年10月29日 於産業貿易館（名古屋市中区）

〔大会の実施内容〕

佐藤 国彦

昨年10月に協議会の20周年記念大会が、会員等は86名の参加を得て行われました。

協議会の発足は昭和56年4月で、昨年が丁度20年目に当たります。平成3年に10年大会を観光会館（名古屋市中区）で行って以来2度目の節目を迎えることができました。

当日の概要は、次のとおりでした。

1 趣 旨

20年間の指導員活動を振り返って、新しい時代に対応できる協議会に向けて、新たな出発を目指すとともに、社会的な知名度を得る契機とする。

豊かな心を持った人々が、自然と共生できる社会を目指していくために、多くの人に自然の楽しさ、仕組み、大切さを伝えることをねらいとして活動を続けることを確認する。

2 アピール

日本の美しい自然は日本の文化と豊かさをつくってきた源であったが、近年の経済活動の進展とともに徐々に変化し、私たちの生活も自然と離れつつある。特に、子どもたちの自然離れが著しいのは、情操教育においても大きな問題である。美しい日本の自然を人々が楽しみながら大切に、次世代まで残していくひとが、これからの日本を考えるとき、とても大切なことと考える。

「自然の楽しさ・大切さを みんなに」

— 生命を育む環境を次世代に —

3 大会の内容

★ 分科会 10:00～12:00

①「私の観察会・現在・過去・未来」

“観察会初めの一歩、これからの活動”

②「学校教育での自然観察」

“総合学習への展開をめざして”

③「どんな自然を守っていくか」

“日頃の活動を一歩進めるために”

④「環境教育と自然」

“自然観察に始まり、自然観察を超えて”

（分科会の概要は、後にまとめましたが、それぞれ熱心な討議がなされ、2時間では少なかったようでした。）

★ 大 会

〔大会式典〕 13:30～13:55

・会長あいさつ

・来賓祝辞（愛知県自然環境課長）

・お祝いのメッセージ

（NACS-J 普及部長）

・協議会経過報告

〔講演会〕 14:00～15:25

「身近な自然を新たな視点で」

講師：高木典雄氏

（名古屋大学名誉教授）

（日頃何気無く目にしているもの、例えば野菜のようなものでもよく観察することによってそこからいろいろな発見があることを実例から教えていただきました。）

〔スタンプラリー抽選会〕 15:30～15:40

〔分科会報告〕 15:45～16:30

★ 懇親会（立食パーティ）17:00～18:30

— 本館地下1階レストラン —

- '99. 6. 19 普及部会(名古屋市公会堂・7名)
何のための20周年か。日時12年度秋。場所は名古屋市内。会員150名＋一般100名に。
講師候補 写真家・川津氏ほか
- '99. 7. 11 名古屋市教育館 7名
定例観察会の現状、問題点。日時・内容・担当・記念講演会の検討。
- '99. 10. 11 金山近くの喫茶店 3名
記念行事の意義などについて
- '00. 3. 20 記念行事の意義：会の知名度をあげ、20年の歴史のまとめをする
- '00. 4. 8 名古屋市教育館 8名
記念大会期日を10/29とする。日程の検討。内容3案。会場候補6カ所。スタンプラリー担当を決める。機関誌の対応。Eメール発送開始。
- '00. 5. 20 名古屋市教育館 8名
スタンプラリー原案出て、初めて具体的に検討。分科会の内容・とりまとめ役決まらず。記念誌のページ割り振りしても原稿依頼人決まらず。
- '00. 6. 18 名古屋市教育館 6名
協議会の趣旨・テーマが出る「自然の楽しさをみんなに」。スタンプラリー帳(この検討をして、初めて印刷にまわす。一部原稿の手直しをしたりしているうちに7月がきた。結局担当者にスタンプ帳がまわったのが遅かった。)会場は？ 講演会の講師候補選定。分科会の内容・担当の検討。
- '00. 7. 2 名古屋市教育館 6名
スタンプラリーの当日の担当は？ 講演者依頼の経過報告。分科会の担当者選定。補助金申請の検討。関連行事(フリーマーケット・観察会PR)の検討
- '00. 7. 16 名古屋市公会堂 6名
会場が産業貿易館に決まるが、今だに講演者が決まらず、チラシが配布できない。PR不足。会から昼食を出すこととする。
- '00. 9. 分科会担当者打合せ

- 資料配付物・受付・会場展示の打ち合せ
- '00. 9. 機関誌で会員に通知。
- '00. 9. 30 名古屋市教育館 9名
最終打合せ。不分科会の進行・受付・懇親会の検討。参加者名簿。
- '00. 10. 29 朝、各担当者がパネル作成。分科会・講演会場の準備。受付等準備。

1999年6月19日の普及部会で初めて20周年行事の話が出た。7月に第1回の実行委員会を開いたものの、お互いに話し合ったことのない者の集まりであり、10周年の日程等の資料提示はあったものの、当時の記念行事の経験のない者たちが何から話を進めてよいのやら見当がつかなかった。とりあえず事務的に日時や係りを割り振るが、観察会の抱えている現状などのまとまりのない話に盛り上がっていった。第2回実行委員会は、金山付近で3名集まっただけに終わった。年末になると委員の何人かが仕事等で欠けることになった。こんな調子でやれるのだろうかという不安がよぎる。

《分科会のこと》 3月になって実行委員会のメンバーも集まり、ようやく具体的に動き出した。「どんな20周年行事にするのか、何のためにするのか」など意見を取り交わし、分科会の内容も決まっていた。お互いに各支部の人材がわからず、担当者・発言者を誰にするかの選定にと思い、遠方の係りにはEメールや電話・郵送などの手段も使って連絡をとった。しかし、Eメール中心ではなかなかこちらの意図が伝わらず、一方通行に終わった面もある。実際に顔も合わさずに、実行委員以外の者に、こういうものを作ってくれと頼んだところではあるものではないこともわかった。

9月の協議会ニュースに葉書を同封したものの、当日何に申し込んだのかわからず部屋を探していた人、間違って部屋に入った人、

飛び入りの人がいて、分科会の受付や弁当担当が困ることとなった。

《スタンプラリー》 自分の支部のことはわかっているが、他支部のことはわからない。協議会での活動を会員にも一般にもPRするためにスタンプ帳を作って、スタンプラリーをすることになった。しかし、早くから骨子はできていたものの、具体的に動くメンバーが決まらず、具体案が出たのはスタンプラリーの始まる一ヶ月前、しかもPR不足で、担当の者にも徹底できなかったと反省する。会員への徹底、PR方法に課題が残った。

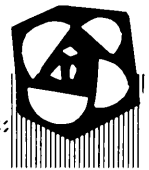
《会場のこと》 200人規模の記念行事にしたい。そんな会場はどこにあるのか。交通の便は？ 懇親会会場に近いのか。当初にこちらで勝手に決めてかかっていたが、予約が2・3カ月前、しかも予約が重なれば抽選になるとのこと。一旦会場費を収めれば、なかなか変更し難い。公会堂の事務室から借りた会議室のある施設一覧がとても役に立った。

《講演会のこと》 チラシを早く作り、PRしないと盛り上がらないことはわかっていた。しかし、講演者が決まらないことにはチラシは出来ない。今回の記念行事に合う人を探すのに四苦八苦したが、申込が遅く後手後手に回った。（当初申し込んだ人から、都合の善し悪しの返事がなかなかもらえなかったことが最も痛かった。）

《他団体との協賛》 会員の中にはいろいろな団体に所属し活躍されている方も多く聞く。その人たちの活躍を聞いたり、他団体との意見交換をしたりするのもよいのではという意見をいただいた。今後も課題として残るだろう。

《会員相互の連絡》 協議会で実行委員会を作り、大きな行事に取り組んだのは意義が大きかった。意見を出し合うことはあっても、何かの行事に取り組む私自身初めてであった。会員との連絡は、今のところ協議会ニュースに頼るしかない。一部会員の結び付きが強く、観察会等を通して連絡したり、Eメールで連絡し合ったりしていたところもあった。会ったこともない人に、私がいきなりEメールを送りつけて意見を下さいと言っても無理な話であった。協議会のホームページをもち、意見や質問を求めたらという意見もあった。今後の課題と思う。

委員会・理事会などの会議は、全部で10回以上開いた。当初の予定数 200名にはほど遠いが、失われつつある20年の歴史を振り返って、おおざっぱではあるが記録に残し、これからの協議会の進む方向を確認し合った行事を、実行委員会のメンバーが作り上げたという意義はとても大きかったのではないかな。



「20周年記念大会を振り返って」

青木雅夫

自然保護をめざす協議会が開催する20周年記念大会。はたして何をすればよいか。環境問題をどう扱うのか。ターゲットは等々…。テーマの大きさと重大さに翻ろうされていた。

しかし、企画はどんどん決まり、進行し、あっという間に開催日がきてしまった。

舞台の吊り下げ看板が前日に持ち込めなくて、やむをえず作業を中止。仕様を変更して間に合わせたり、各観察会の紹介パネルの展示方法の準備、表示プレートの確認、その上中日が取材を断ってきたり、最終日までいろいろと続いたが、本番ではスケジュール通りに事は運んだ。協議会の現状から見れば、結果は良かったのではないかと判断してもいいのでは、と思う。

唯一、悔いが残ったのは、事前のPR不

足。特に、指導員に対しては、絶対的に足りなかった。企画の進捗状況を逐一知らせるべきだった。何人かの指導員に話をしても全く関心がなかった。その結果一般の参加者も数える程だった。接角の機会だったのに残念で仕方ない。今後の協議会のすべての行事を成功させるためにも是非これだけは生かして欲しいと願う。

実行委員のチーフ、尾張支部の大谷さん。本当に大変だったと思います。みなさんご苦労さまでした。

* * * * *

「20周年記念大会と協議会」

佐藤 国彦

記念行事のスタッフの皆さん、当日ご参加の会員の皆さんありがとうございました。また、出欠の葉書でもお祝いや励ましの言葉をたくさんいただきました。

今回の記念行事は、なるべく多くの方に企画・担当をお願いして、盛り上がったものにしたと思っていましたが、結局は10名に満たないスタッフにより何とかまとめあげた形になりました。それでも、当日の準備や分科会には多くの方が協力していただき、有意義な行事にすることができました。多くの人の協力がなければ実現できなかったことと思います。

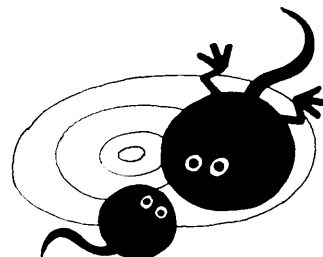
今回の記念行事で、会員の活動状況の情報提供ができたこと、自然環境やそれを取り巻く状況について考えたことなどの効果はあったでしょうが、それとともに協議会の抱える欠点なども現れていました。

協議会も会員 450名を数えるようになり、10周年記念のときは何となく顔見知りの者が集まったという感があったのが、今回は知らない人がたくさんいるという雰囲気ではなかったかと思います。これは、会員数の多さだけでなく、事務局の体制不足で、会員が多く参加するような行事が組めなくなったことと

か、支部なり定例観察会の行事が忙しくなって、日頃会員どうしが集まりにくくなったこともあるでしょう。

今まで、協議会の事業は、観察会、研修、調査を3本の柱として進めることとしていましたが、活動の中心が変わってきた今では、これを見直して、協議会としてこれから何をしていくべきかを改めて考え直す時期に来ているように思われます。現在、組織検討委員会で協議会のあり方などを検討しつつありますが、委員会だけでなく、会員との意見交換も踏まえて、考えていく必要もあるかもしれません。今回の実行委員会でも、始めは指導員とはとか、観察会とはなど、日頃の活動についての情報交換や考えを話すことから始まっていったのも、日頃そうした場がないことを物語っていたように思われます。

20年間の地道な活動により、指導員の係わる観察会も年間 250回以上は開かれているほどになりました。普及活動は、長く続けることが大切だという見本にもなろうかと思えます。自然に関する社会の見方も20年前とは大幅に変わってきて、自然の大切さなども多くの認識を得ています。しかし、それだけに、今後はさらに本質的なことと対決する時期にきているようにも思えます。20周年を機会に協議会として、新たな出発が求められているような気がします。多くの会員がご意見をくださるとともに、協議会の行事に参画していただけることをお願いします。



分科会の状況

第3分科会「どんな自然を守っていくか」 ― 日頃の活動を一步進めるために ―

日頃、自然観察会を行っている者から、ほとんど参加することのない人、指導員ではないが観察会によく参加している人などが出席した。

出された主な意見の概要は、以下のとおりであった。

〈自然保護について〉

- 2020年から2060年にかけて人類は最大の危機を迎えると言われているが、それを乗り越えるのが、自然保護活動だろう。まず、身近な自然を守ることが大切で、私たちは自然が急変していることに気づくべきである。
- 開発事業で気が付いたら山や谷がなくなっている。どのように計画されたかわからないが、地域に関係なく進められている。地域が納得するように進めるべきである。
- 湿地が開発や土取りなどで失われていく。町などが土地を買い取る形で自然を保護できないものかと思う。
- 田が放棄されてシラタマホシクサが生えたりして自然が戻る一方で、山林の法面の草刈りが行われなくなって、ササユリが生えなくなったこともある。自然を守るために手を入れる必要もある。

〈自然観察会と自然保護のかかわり〉

- 自然保護のためのPRが必要だと思うが、観察会の効果が出てきているかはわからない。長い年月がかかると思う。
- 湿地などで観察会を行えばよいというものでなく、下手をすると盗掘の手引きをしてしまうこともある。
- 身近な自然を守ることが、地球環境を保全することにつながることを認識させたい。
- 子供に積極的に自然に親しませることが必

要で、そのためには興味を持たせるような方法を持たないといけない。虫を殺してはいけないという形ではなく、共に自然体験をするようにしていきたい。

- 「進歩は良いことだ」から「今までの暮らしを改める」という意識をみんなが持たなければいけない。そのためにも、子どもに期待したい。
- 観察会は、構成メンバーの考え方に幅があるので、直接自然保護の活動をすることは難しい。

〈行政とのかかわり〉

- 犬山の川で観察会をしていて、スズサイコ
- ヒメミクリなどが見られたが、河川改修が始まり、何度か市へ陳情に行った。始めは相手にされなかったが、やがて対応も変わってきた。
- 近年は行政も変わってきていて、我々の活動にも目を向けるようになった。計画段階から参加している。
- 湿地などのような目玉がないと保護に対する意見が反映されないことも多い。
- 政府など、行政の枠組みとして、まだ自然や環境を守ると状況にない。環境庁がもっと影響をもつようになる必要がある。
- 反対活動をするのではなく、提案して共に考えていくことが大切である。
- 行政の姿勢も次第に変化している。まだ理想には遠いが、自然保護について理解するようになってきている。
- 行政に自然観察会などの活動をPRする必要がある。行政と共に観察会などの活動をしていくことによりより多くの人に身近な自然について理解してもらえるようになるのではないか。

第4分科会 「環境教育としての自然観察」

—自然観察に始まり、自然観察を超えて—

〈パネラー紹介〉

浅見良平さん（尾張支部）

春日井市少年自然の家で、児童・市民の自然とのふれあい事業を企画。自然とのふれあいをどのように環境教育へ取り込めるか模索中とのこと。

大竹 勝さん（尾張支部）

我が協議会の初代からの会長。日本モンキーセンターで研究に従事されていましたが、現在は、愛知県や犬山市の自然環境関係委員などに多忙な毎日。

金岡慎太郎さん（西三河支部）

名古屋市環境学習センター（エコパル名古屋）で環境学習事業を担当。市街地での環境への取り組みについて工夫している。

水野利彦郎さん（知多支部）

栄徳高校で理科教育を担当。自然観察への手ほどきは小学生時代に大竹祭さんから受け、それ以来の昆虫少年(?)を継続する優等生。

〈はじめに〉

藤井敏夫さん（知多支部、愛知県環境部環境政策課で環境行政の様々な事業企画を担当）の進行役で、「パネルディスカッション」形式で進める予定でしたが、参加者が15名と少なかったため、全員の活動状況を含めた自己紹介を含めつつ、意見交換やパネラーのアドバイスを受ける形で進行し、予定の2時間はあっという間に終わってしまいました。

〈主な意見交換〉

◎自然観における「採集」の必要性

子供の「原体験」には「捕まえる」ことも必要である。また、調査・研究には、標本は不可欠。→「採集」には、その必要性について、自分の信念を持って行動することが必要である。

◎自然観察と環境教育との関わり

自然の仕組みを教えることが環境教育の起点。「見る自然」から、その自然を形成してきた地球35億年の歴史を併せて伝える工夫が必要である。

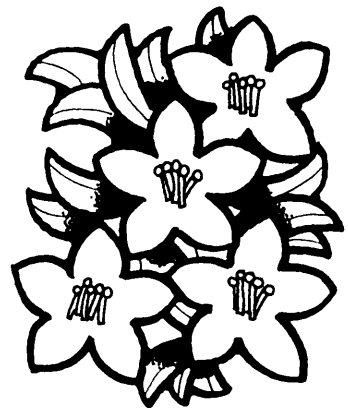
◎後継者の育成

自分自身がまず「感動」し、その「感動」をいかに相手に伝えるか。自然への興味・関心を、具体的活動の中で発現できる人材の育成は「いずれ芽が出る種まき」→息の長い仕事ではあるが、「発芽率を上げる工夫」は必要。

〈終わりに〉

主な発言。提出された問題点・今後の課題とそれに対する参加者の意見は上述のとおりですが、後継者の育成問題の中で述べられた大竹会長の発言を、是非会員の皆様に伝えたいと思います。

『「成果がでるのは10年、指導者となるのは20年」 今の活動の成果を自分で確認できることは恐らくないが、生き残り発芽する種のあることを信じている。』



※ 第1・第2分科会の報告は都合で次号に掲載します。

協議会の歩み（概要）

当日の資料から

「はじめに」

会長 大竹 勝

平成2年に協議会の10周年記念大会を名古屋観光会館で行ったのが、少し前のような気がします。もう20周年を記念することとなりました。協議会が発足した昭和56年頃は、自然観察という言葉を知っている人すら少なく、我々の活動も前がほとんど見えないような時でした。しかし、自然環境をとりまく情勢は大幅に変化し、愛知県周辺でも自然を守るための運動が各地で展開されたことにより、一般の自然に対する認識も大きく変わってきました。特に、この10年間の変化は目覚ましいものがあります。

20年間の指導員活動を振り返ってみて、こうした変化に私たちの会がどれほど寄与できたか、多少心細い気もしますが、自然観察会を中心とした各種事業を長く地道に続けてきたことは評価できるとおもわれます。

しかし、時代の変化を取り入れつつ、また時代に流されない活動を続けるためには、会の組織体制の充実を図る必要があります。一昨年から会の内容を見直しつつあります。この記念大会を契機として、これからの時代に対応できる協議会に向けて、新たな出発を目指し、社会的にも評価される会として、努力していきたいと思えます。

豊かな心を持った人々が、自然と共生できる社会を実現するために、多くの人に自然の楽しさ、仕組み、大切さを伝えることをねらいとした活動を続けたいと思えます。日本の美しい自然は、日本の文化と豊かさをつくってきた源でしたが、近年の経済活動の進展とともに徐々

変化しあり、私たちの生活も自然と離れつつあります。特に、子どもたちの自然離れが著しいのは、情操教育においても大きな問題であると思われます。美しい日本の自然を人々が楽しみながら大切に、次世代まで残していくことが、これからの日本を考えると、非常に大切なことではないでしょうか。

大会の舞台にも掲げてありした、「自然の楽しさ・大切さをみんなに」をモットーに、生命を育む自然環境を次世代につなぐための活動を続けて行くことを目標としたいと思います。



1 指導員講習会と協議会の発足

昭和54年に、(財)日本自然保護協会の工藤父母道さんが、愛知県の自然保護課を訪れ、協会が自然観察指導員制度を作ったので、愛知県でも是非この養成講習会を開催して欲しいとの依頼があったのがきっかけで、翌昭和55

〔愛知県での指導員講習会〕

- ① S 55年10月（18回）愛知県民の森（鳳来町）
- ② S 56年10月（32回）犬山ユースホステル（犬山市）
- ③ S 57年10月（47回）いこいのむら愛知（足助町）
- ④ S 58年10月（58回）鳳来町学童農園（鳳来町）
- ⑤ S 60年9月（84回）愛知県民の森（鳳来町）
- ⑥ S 62年11月（119回）労働者研修センター（瀬戸市）
- ⑦ H 1年9月（138回）愛知県民の森（鳳来町）
- ⑧ H 3年9月（162回）愛知青少年公園（長久手町）
- ⑨ H 5年10月（189回）伊良湖国民休暇村（渥美町）
- ⑩ H 7年11月（217回）犬山ユースホステル（犬山市）
- ⊗ H 9年10月（244回）愛知県民の森（鳳来町）
- ⑫ H11年11月（281回）レイクサイド入鹿（犬山市）

年に第1回の自然観察指導員講習会が開催されました。その後、昭和58年度までの4年間は、毎年講習会を行い、昭和60年からは2年に1度の割合で開催し、11年までに12回の講習会が実施されました。開催場所は、おおむね三河と尾張で交互に行っていました。協議会は、第1回目の講習会の終了時に、自然保護協会の勧めにより設置を決め、翌昭和56年4月1日に会員約60名で正式発足しました。以後、講習会の都度会員は50名近くずつ増えて、現在では、約450名となっています。

2 協議会の事業

(1) 自然観察会

昭和57年の県主催の観察会で指導員に指導を依頼されたのが、協議会として初めての観察会経験です。昭和58年からは、県から協議会へ年6回の自然観察会が委託され、東三河支部では、支部の主催の観察会1回と3回の指導員派遣がありました。その後、各支部とも県委託観察会を研修の場として観察指導に慣れるようにし、支部主催をも企画するようになりました。初めの頃は、自然観察会に失望という厳しい手紙や、内容はともかく皆様方の熱意に打たれた手紙もありました。このように、当初の自然観察会は、支部単位で地域の適当な場所を選ん

で実施する形が主流でした。

平成7年度頃から名古屋市などで、熱心な会員またはグループが自主的に始めた定例観察会を実施するようになってきました。これに支部が協力していく形ができてきて、協議会としてもこの定例観察会の保険事務を一括行うなどの協力をしています。協議会の関わる観察会も現在は、こうした定例観察会が中心となってきており、次のページの表のように30カ所で開催されています。他の機関主催の観察会への指導員派遣も、従来は市町村教育委員会が多かったのが、近年は保健所関係が増えており、観察会への派遣を希望する団体も増えてきています。今迄に協議会が行った観察会は会支部が主体となって行ったものが、下の表のように、約476回となり参加者

〔協議会の自然観察会〕 一部概算

年度	回数	形態別			指導員 延数	参加者 総数
		主催	委託	派遣		
S 57	3			3	30	210
58	10	1	6	3	105	746
59	15	2	6	7	180	844
60	12	3	6	3	105	526
61	19	10	5	4	22	558
62	30	11	7	12	250	1,817
63	27	9	6	12	253	1,219
H 1	26	12	6	8	183	849
2	22	7	6	9	160	750
3	23	9	6	8	180	850
4	27	8	6	13	205	1,551
5	26	9	6	11	266	1,619
6	26	9	6	11	200	1,049
7	38	13	6	19	117	1,116
8	36	8	6	22	191	929
9	50	10	7	33	341	2,091
10	41	8	5	28	250	1,600
11	45	8	5	32	270	1,750
計	476	137	101	238	3,308	20,074

〔最近の定例観察会実施場所〕

大高緑地・東山公園・猪高緑地・
相生山緑地・大森湿地・平和公園
・明徳公園(2回)・藤巻町・平針
・森林公園・定光寺・善師野・小
幡緑地・笠松町トンボ池・築水池
周辺・岩藤川・東海市・知多市・
半田市・常滑市・大府市・東浦町
・阿久比町・武豊町・美浜町・南
知多町・平戸橋・境川河口・閼刈
溪谷・豊橋公園

は延べ2万人を越えています。この他定例観察会でも、今までに概算で1万5千人ほど参加者があり、合せて3万5千人ほどが参加したことになります。

(2) 研修会・研究会 協議会
会事業の3本の柱である研修会も20年の間には、多くの講師を招いたり、会員が講師となったりして、幅広く様々な分野のものをそれなりに工夫をこらしながら実施してきました。また、会員相互に意見を交換したり、外来講師の意見を聞く研究会として、観察会のねらいや指導方法、環境教育に取り組んできました。

(3) 調査

協議会が充足した頃は、タンボポの帰化種と在来種の分布調査が各地でなされており、協議会でも最初の調査として取り上げました。それ以来、ほぼ毎年何らかの調査を実施してきましたが、思うような成果はなかなか得られませんでした。全県を対象とした大がかりなものをねらい過ぎたためかもしれません。最も長期に力を入れた調査は、ブナ科樹木の分布調査で20種の樹木について、県下の状況をかなり把握することができましたが、報告書が未発行なのが問題です。

(今年前半にはなんとかかまとめる予定)

〔協議会の研修会・研究会の区分〕

研 修 会	一般研修会	水生生物(4回)、植生研修会(3回)、土壌生物研修会(5回)など
	基礎研修	ビオトープ、観察会の運営、愛知県の土地利用、川の管理など
	新人研修会	冬芽の観察、冬芽と樹形、周伊勢湾植物、つる植物など
	フォローアップ研修	段戸のブナ林、植生調査、海岸の生物、花と昆虫など
	話題の地見学会	トヨタの森、東濃のシデコブシ、相生山オアシスの森計画など
	視察研修会	蕎麦粒岳・桶ヶ谷沼、樽池自然園、御岳高原、紀伊長島町大島など
	キャンプ研修会	根ノ上高原、枇ノ湖など
研 究 会	指導員研修	宿泊研修7回(うち2回NACS-J共催)、
	里山の管理	里山の現状について
	自然観察指導	自然観察会でのゲーム、定例観察会の記録方法、街中の観察など
	環境教育	行政における環境教育、学校教育の中の環境教育など
	自然保護	自然保護を考える

〔実施した調査〕

- * タンボポ調査 (昭和57~68) (1kmメッシュで実施)
- * シイ・カシ大径木調査 (昭和59~6)
- * セミ分布調査 (昭和59~60年、平成7~8年)
- * ブナ科樹木分布調査 (昭和63~平成6年) 1kmメッシュ
- * 水生昆虫調査(アミメカゲロウ) (昭和63~平成2年)
- * 哺乳類分布調査(データ収集) (昭和63~平成5年)
- * ムササビ分布調査 (平成4年)
- * ベイトトラップ調査 (10年)

※ 協議会の実績は概要ですので、今後順次整理していく予定です。



20年を振り返って

竹内 哲也（知多支部）

入会して20年も過ぎてしまった。

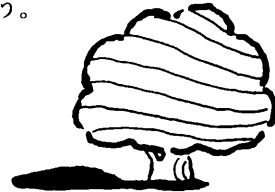
無学者が偉そうに自然の様子を自己本意に伝達してきた。最近の学説では間違いとされる事柄や、参加者に誤解を招くような解説をしてきたことを悔いる。ここ20年自分自身も自然とはどういうものかが会得できず、本会の名を傷つけてきた。(この文もそうかも知れない。)

科学嫌い・理科離れと言われる現今、自然観察を通して如何に自然から学ぶ態度を育成するかを思い悩んでいる。世の中は観光という自然観察は盛んで自然愛好家は増えたが情緒的なことが多い。

残る人生を多くの人々にどう指導していくかが課題である。一方的な解説を少なくし、疑問を抱かせるような誘導発問をし、本人に

気づかせ、共に解析の手立てを考え、共に観察・実験の自然にやさしい方法を考えて納得させる。とかく指導者は本人の知っている事柄を全て伝達したがる傾向がある。そんな感情を押え、参加者の心の動きを察知して次の問題へと発展していけたらと思うのだがどんなものであろうか。

愛知県の自然観察指導員の立場や役割は、単なる趣味団体ではなくなってきた。行政を助け、学校教育・社会教育の分野で施行できない部分を補わなければならない。極めて地味な団体とも思う。



20年を振り返って

中井康夫（知多支部）

自分が指導員になって、ここまで続くとは思わなかった。知多支部の人たちをはじめ、いろんな人たちに助けられ、育てられもしてきたおかげである。本当に感謝しています。これからは自分が何かの役に立てればと、思っています。これからも、よろしくお願いします。最後に、研修視察旅行で、ジオジ平・千畳敷・極楽平へ行っったときのことが、すば

らしかったので、時々、写真を見ながら振り返っていますが、これはもう平成元年7月22・23日のことだったのですね。



指導員歴19年を振り返って

石川静雄（奥三河支部）

私が自然観察指導員の資格を取得したのは、今から19年前の1981年10月でした。動機は、永い間植物などに親しんできたことも有りますが、数年後に職場の定年退職を控えていましたので、生涯の趣味活動ができる資格を得ておきたかったからです。

私が資格を得た頃は、まだ指導員がまとまって行動する基盤ができていませんでしたので、いきおい従前からやっていた趣味活動にプラスしたような独自の考えで、小規模な自然観察会をやっていました。いわば自分の勉強が主体のような観察会でした。一方、県段

階では、1981年4月1日に愛知県自然観察指導員連絡協議会が発足し、その翌年には県内6つの支部組織ができて、本格的な自然観察会が行われるようになりました。

私が所属している奥三河支部は、1983年に支部が設立され、名称も「奥三河自然保護研究会」として旗揚げしました。そして、その年に初めて県委託の自然観察会を鳳来寺山で行いました。参加者も大変多く会員総出の観察会が実施されました。

以来、今日まで19年間支部会員の一人として、平均年4～5回、18年間で100回近くの自然観察会に皆出席しました。また、参加者には自然の素晴らしさ、大切さを知ってもらうとともに、楽しい観察会になるよう心掛けてまいりました。指導員暦19年、私も古希を迎え高齢者の仲間入りをする年になりましたが、生涯学習の友として、この道を選びましたので、働けるうちは会員としてお世話になろうと思っています。よろしく。

水の環境を考える

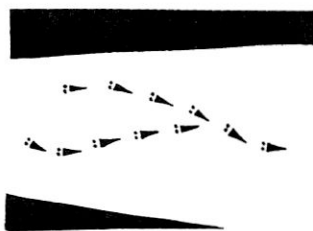
東 義巳（名古屋支部）

私と水草との出会いは昭和55年の夏であった。団地の南側にある側溝の畔で生育していたシャジクモを見つけたのが切っ掛けでした。それ以来水草に興味を持ち、自転車やオートバイで遠方に調査や観察に出掛け、めずらしい水草を発見した時などは大変嬉しく思ったものです。しかし、それらの水草も、現在では場所によっては水質悪化や地域開発などの変化で種類の減少や絶滅したりして、水草にとっては厳しい環境となっています。

観察会でもため池などを例にとりますと自然保護理念と眼前に広がる汚水流入によってアオコの発生したようなため池や、ドブ川と化した農業用水などの現実的なギャップを皆さんも体験する事も少なくないでしょう。

私は、水草を通して思う事は、水質浄化はやはり一人一人の問題として認識する必要があると思っています。

「きれいな水は大切な循環資源であり、地球の財産である。」



歩け歩け（岐阜金華山）

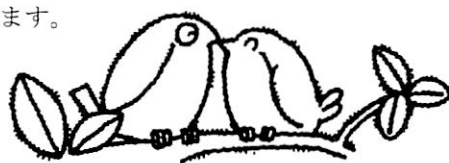
後藤 春（尾張支部）

11月3日私と主人は午前8時30分頃家を出ました。名鉄で岐阜駅へ。さあ梅林まで歩きます。シジュウカラのさえずりにさそわれ、ゆっくりゆっくりと登ります。途中の稲荷さんの前でひと休み。ヤマウルシの赤に励まされながら水道山。「時の鐘」（10時）は

樹々をふるわせ、黄葉がひらひらと舞います。

北側の公園は下りばかり。約2時間の歩きでした。日頃の散歩は、妙興寺往復です。

四季折々の自然を楽しみながら、老夫婦は歩いています。



自然観察指導員の講習を受けて早20年、時の経つ速さに驚いています。協議会は、その時と共に大きく（成長ではない！）なりました。記念大会では、協議会に対する熱気を感じましたが、自分自身が仲間の顔を知らないことにも気づきました。記念大会以外になぜ顔を合わせる機会がないのだろう？

協議会は大きな組織になりました。それが護送船団か、巨艦か分かりません。しかし、その系統はあいまいで、小回りはきかなく、この行き着く先は座礁か、漂流か、はたまた自爆か、と悲観的になってしまいます。いず

れにしても、その潜在能力は大きいはずなのに、それを発揮できる状況ではありません。

20周年を機会に思うことは、愛知県の自然のために協議会を成長させることの必要性です。そのためにも、会員がもっと顔を合わせる機会を作りませんか。そうすれば、今抱えている問題点を洗い出し、より機能的な協議会ができそうな気がします。まだ、救命ボートに移るのは早い。このような組織を新たに作り出すには、20年という時は重過ぎると思います。

自然観察指導員の役割とは

梶野 保光（東三河支部）

この原稿を書こうとして、ふと戸外に目を見ると見られない鳥が目にとまった。野鳥については全くの門外漢の私は早速ハンディ図鑑を取り出し、もう視界から消えてしまった小鳥を探す。あった。おぼろげながら確認できた「翼に白い斑」から「ジョウビタキ」らしい。宿根性の西表アサガオが咲いている脇に姿を現した冬鳥である。

自然観察はこんな楽しみ方もあるのだなと一人悦にいった。季節はもう立冬を過ぎた。私が協議会に入れていただいて、9年目の秋が終わった。愛知万博の会場に予定されている『愛知青少年公園』での講習は私にとってある一種のカルチャーショックでもあった。

学生時代、自然科学系の技術を学んだが宮仕えの悲しさか『人間』を相手にするいわゆる営業職を30年近くやってしまった。そんな私であるが、所属する支部の主催する観察会に極力出席するよう心掛けた。身近な自然を観察する自然観察会は北アルプスのような質の高い自然と違い地味ではあるが環境を考えさせてくれる絶好な機会である。

最近、書店の環境関連の書棚には『自然と環境の資格ガイド』関連本が多く置かれている。我々の自然観察指導員も必ず紹介されている。それだけ注目されているは先輩として協議会組織の充実や主催する自然観察会の質の向上を真剣に検討しなければならないと思う。『環境基本計画』ではわが国の国土空間を山地自然地、里山自然地、平地自然地、沿岸海域に分類している。我々が主として観察会を行う場所は身近な環境である里地や平地であり、そこにもさまざまな生き物が生息している。青少年の理科離れが懸念されているなかで、青少年への野外教育の重要性が指摘されている。このような身近な環境を自分たちで調べ、学ぶフィールドワークは21世紀を担う青少年にとって重要である。

我々、自然観察指導員は積極的かつ主導的に地域、学校の野外教育（環境教育）活動に参加していくことにより地域の自然環境保全に貢献できるのではないだろうかと確信している昨今である。

数年前、善師野の森が、重機によって無惨にも赤裸にされたのを見た。近くは、夏になるとオオヨシキリがにぎやかにさえずる散歩コースの芦原とはいえないほどの狭い土地が刈り取られ、えぐられ、土を盛られて常緑樹を中心に植樹（密植）されるというのを目の当たりにしている。

これまで自然のおもしろさに魅せられ、自然の大切さやすばらしさを伝えようと観察会をやってきた。しかし、自然のことを知れば知るほど、環境の破壊や自然に対する行政などのおかしな対応が気になりだした。個人的におかしいと思ったことに対して行政への働

きかけをしているが、個人的な対応では情報不足や同じような問題を抱えているところとの連携がとれず非効率的であることを痛感している。

20年という協議会の観察会活動の成果を「残したい都市周辺の自然マップ」（自然環境保全地域のような特別なところではなくごく普通のところである程度の広さを持ったところ：河畔林、雑木林、ため池など）というような形にまとめ、それを元に行政との話し合いの場を作ってはどうか。このような活動が、会員の意識改革につながり、環境NPOの設立のきっかけとなればと思う。

協議会20周年を振り返って

竹内 秀代（知多支部）

平成14年から学校では“総合学習”というのがはじまる。

これは、今では教科の枠にとらわれない、自分の知りたい、調べたいことを追求して活動していく、というものである。その中で、“自然について調べたい”“郷土の自然を調べたい”など、自分たちの身の回りを調べる活動が増えた。そこで、自然をよく知っている地域の人や自然観察指導員を学校に招いて話を聞くという活動があちこちで行われるようになってきた。

協議会が始まった20年ほど前は、一般募集の観察会は少なく、自分たちの研修が多かったように思う。しかし、年々一般募集の観

察会が増え、知多では市町ごとに年数回づつ一般募集の観察会が行われるようになってきた。常連さんもあり、四季折々の身近な自然を楽しみたいという要求も高まってきつつある。

年とともに、自然観察会へ求められるものも増えてくると思うが、参加者とともに“あるがまま”をよく見るという姿勢を忘れないでこれからも活動していきたいと思う。



協 議 会 と 私

松岡 孝子（東三河支部）

私が、自然観察指導員になって 18 年が過ぎようとしています。興味本位で講習会に参加してから、成長しないながらも東三河支部の一員としてこれまで続けることが出来ました。それは、素晴らしい会員の方々に出会え、教えていただいたからです。小さい娘や息子を連れて参加し、役に立つどころかご迷惑ばかりおかけしたこともありました。それでも、いつも温かい雰囲気の中で楽しく活動することができました。

本会の魅力は、会員一人一人だと思います。

私は、多様な活動をされているすてきな会員の方々と知り合え、共に行動できる場として、本会を大切にしていきたいと考えています。これからもよろしくお願いいたします。



20 年 を 振 り 返 っ て

鈴木 友之（東三河支部）

協議会が発足して 20 年を経過した今、過去を振り返る時、感慨深さをしみじみ感じます。思えば、1980 年に愛知県では第 1 回目となる自然観察指導員の講習会が鳳来町の愛知県民の森で実施されたのです。

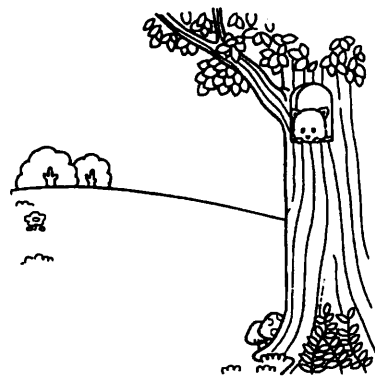
私は躊躇することなく受講生となりました。60 余名過ごした 2 泊 3 日は新体験にあふれており、瞬時の出来事のように想起されます。

翌年の受講生を迎え協議会が結成されたと認識しております。

1982 年には 6 支部が組織されました。私の切望していた特性を生かした地域における活動では、楽しみ、苦しみつつも多岐に亘る人々との接触により、有益な他では得られない年月でした。

自然環境の変化する中で、最近特に際立つ現象として地球温暖化は、動植物を通してより注目すべき課題の一つと云えるでしょう。

会活動の中にも、より身近な取り組みにより、楽しく参加出来る行事等企画してほしいと願う者です。



「20 年を振り返って」という特集を企画したところ、多くの会員の方から投稿をいただき、ありがとうございました。

日頃の活動などで紹介したいこと、協議会

についてのご意見やご質問、要望などについても気軽にご連絡ください。

メールでも受け付けています。（近藤）

アドレス morihide@quartz.ocn.ne.jp

行 事 案 内

「協議会通常総会」

- ・期日：平成13年4月30日(休) 14:00～ 愛知県勤労会館
(地下鉄鶴舞線「鶴舞公園」駅、JR中央線「鶴舞」駅徒歩8分)
- ・議題：平成12年度事業報告及び決算
平成13年度事業計画及び予算

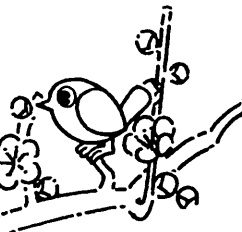
「ふるさと自然観察会」

環境月間に実施します。詳細は次号で。どこかへご参加下さい。

- 5/26(土) 明德緑地(名東区)
- 6/ 3(日) 富山地区(富山) 横須賀新川(東海) 森林公園(尾張旭)
大森(守山区)
- 6/ 9(土) 定光寺(瀬戸市) 猪高緑地(名東区)
- 6/10(日) 豊橋公園等(豊橋) 開苅溪谷(額田) 明德公園(名東区)
石川(武豊) 大高緑地(緑区)
- 6/17(日) 南陵地区(常滑) 木曾川(一宮) 岩藤川(日進)
東山(千種区) 小幡緑地(守山区)
- 6/23(土) 善師野(犬山) 板山地区(半田)
- 6/24(日) 山王川(美浜) 相生山(天白区) 築水池(春日井)
平戸橋(豊田)
- 6/30(土) 定光寺(瀬戸) 熊野神社(大府)

編集後記

平年値が10年ぶりに改定されました。この10年間で、地球温暖化の影響から全国的に平均気温が高くなり、名古屋では1月の平均気温が3.7度から4.3度になったそうです。平年値は気温などに限られません。ウメの開花日やウグイスの初鳴日なども変わっているでしょう。指導員の中にも個人的に記録をとっている方もいるのではないのでしょうか。一人ひとりの記録は少ないかもしれませんが皆の記録が集まれば、おもしろいデータになるかもしれません。10年という月日は長いようですが短い感じもします。協議会も



設立20年となりました。会員も増え、協議会の維持、発展に一人ひとりのお力添えが必要となっています。今後とも皆様のご参加、ご協力をお願いします。(近藤)

目 次

協議会20周年記念大会開催される

○20周年記念大会の結果	1
○各分科会の状況	5
○協議会の事業実施状況	7
会員投稿「20年を振り返って」	10
行事案内・編集後記	15

愛知県自然観察指導員連絡協議会 機関誌 NO 78

編集事務局 7456-0057 名古屋市熱田区五番町6-29 近藤盛英